



適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	D-Dを含む 農業の総 使用回数	
ブロッコリー カリフラワー	テンサイシストセンチュウ	20ℓ/10a (1穴当り2mℓ)	作付の 10～15日 前まで	1回	全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の 畝盤の目に切り千鳥状に深さ 15～20cmに所定量の薬液を 注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回	
はくさい、ほうれんそう、 キャベツ							
レタス、非結球レタス							
きゅうり、すいか、いちご、 トマト、ミニトマト、メロン、 かぼちゃ、なす、ピーマン、 とうがらし類、まくわうり							
だいこん、はつかだいこん、 にんじん、かぶ、ごぼう							
てんさい、こんにゃく、 さといも、らっかせい、 しょうが、やまのいも、 みょうが(花穂)、 みょうが(莖葉)、 しそ、しそ(花穂)、 バジル、うど	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	15～20ℓ/10a (1穴当り1.5～ 2mℓ)					
薬用にんじん、食用ぎく、 オクラ、にがうり、もりあざみ、 らっきょう、みしまさいご、 さやいんげん、にら、 つるむらさき、 非結球あぶらな科葉菜類							
せり科葉菜類							
ね ぎ	ネダニ類	20ℓ/10a (1穴当り2mℓ)					全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の 畝盤の目に切り千鳥状に深さ 15～20cmに所定量の薬液を 注入し、直ちに覆土鎮圧する。
豆 類 (未成熟、ただし、えだまめ、 さやいんげんを除く)	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	15～20ℓ/10a (1穴当り1.5～ 2mℓ)					1)全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の 畝盤の目に切り千鳥状に深さ 15～20cmに所定量の薬液を 注入し直ちに覆土鎮圧する。
かんしょ	ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫						
うり類(漬物用)	センチュウ類 コガネムシ類幼虫	15～30ℓ/10a (1穴当り1.5～ 3mℓ)	2)作条処理 は種又は植付前にあらかじめ 予定された溝に30cm間隔に所 定量の薬液を注入し直ちに覆 土鎮圧する。				
だ い ず えだまめ	ダイズシストセンチュウ	20ℓ/10a (1穴当り2mℓ)	全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の 畝盤の目に切り千鳥状に深さ 15～20cmに所定量の薬液を 注入し直ちに覆土鎮圧する。				
	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	15～20ℓ/10a (1穴当り1.5～ 2mℓ)					





適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	D-Dを含む 農業の総 使用回数
ばれいしょ	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	15~20ℓ/10a (1穴当り1.5~ 2mℓ)	作付の 10~15日 前まで	1回	1)全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の 畧盤の目に切り千鳥状に深さ 15~20cmに所定量の薬液を 注入し直ちに覆土鎮圧する。 2)作条処理 は種又は植付前にあらかじめ 予定された溝に30cm間隔に所 定量の薬液を注入し直ちに覆 土鎮圧する。 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の 畧盤の目に切り千鳥状に深さ 15~20cmに所定量の薬液を 注入し直ちに覆土し、ポリエチ レン、ビニール等で被覆する。 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の 畧盤の目に切り千鳥状に深さ 15~20cmに所定量の薬液を 注入し、直ちに覆土鎮圧する。	1回
	ジャガイモシストセンチュウ	30~40ℓ/10a (1穴当り3~ 4mℓ)				
	青枯病 そうか病					
	ジャガイモシストセンチュウ	40ℓ/10a (1穴当り4mℓ)				
茶	ネコブセンチュウ	20ℓ/10a (1穴当り2mℓ)				
きく	ネグサレセンチュウ	15~40ℓ/10a (1穴当り1.5~ 4mℓ)	作付の 10~15日 前まで	1回	1)全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の 畧盤の目に切り千鳥状に深さ 15~20cmに所定量の薬液を 注入し直ちに覆土鎮圧する。 2)作条処理 は種又は植付前にあらかじめ 予定された溝に30cm間隔に所 定量の薬液を注入し直ちに覆 土鎮圧する。	1回
	ネコブセンチュウ コガネムシ類幼虫					
花き類・観葉植物 (きくを除く)	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	15~20ℓ/10a (1穴当り1.5~ 2mℓ)	植付の 10~15日 前まで			
樹木類	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	15~20ℓ/10a (1穴当り1.5~ 2mℓ)	植付の 10~15日 前まで			
すぎ・ひのき(は種床) すぎ・ひのき(床替床)	イシクセンチュウ ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫		作付の 10~15日 前まで	1回		
たばこ	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	20ℓ/10a (1穴当り2mℓ)	作付の 30日前 まで	1回	1)全面処理 耕起整地後、30cm×30cm間 隔で地表面から深さ15cmに所 定量の薬液を注入し、直ちに注 入口をふさぎ、鎮圧する。 2)畦内処理 植付前、畦立・畦面被覆後に、植 付予定位置の深さ15~20cm に所定量の薬液を注入し、直ち に覆土鎮圧する。但し、ガス抜 きは行わないこと。	1回
	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	4~6ℓ/10a (1穴当り1.3~ 2mℓ)	作付の 30~45日 前まで			





⚠ 効果・薬害等の注意

- 土壤中にガスを十分拡散させるため、耕起、整地はていねいに行う。
- 生育中の作物には薬害を生じるおそれがあるので使用しない。
- 処理は原則として作付の10～15日前に行い、作付の3～4日前に畑を耕起して十分にガス抜きをする。ガス抜きが不十分な場合には薬害を生じるおそれがあるので注意する。
- 処理後大雨があったり、土壌が重粘土質で通気の悪い所では、ガス抜きを特に念入りに行う。
- 温度の低い時、薬量を多くした時は、注入から作付までの期間を少なくとも1週間くらい長くする。
- 処理後、未消毒の土がなるべく混入しないよう注意する。
- ばれいしょのそうか病に対しては、地温が低いと効果が不十分な場合があるので注意する。
- 茶葉を収穫する茶樹成木には使用しない。また、茶樹幼木に使用する場合は、翌年に茶葉を収穫しない。
- ミツバチの巣箱周辺での使用はさける。
- 処理後の放置期間と効果、薬害との関係は、土壌の種類、腐植土の多少、温度、土壌水分、作物の種類によって様でないので本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意する。特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⚠ 安全使用上の注意



- **医薬用外劇物** 取扱いには十分注意する。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、保温して安静にしながら、直ちに医師の手当を受けさせる。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には通風の良好な場所で足を高くし、顔を横に向け、体を暖め、頭部を冷やして安静にしながら、直ちに医師の手当を受ける。
- 本剤は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 本剤の投薬及びガス抜き作業の際は吸収缶（活性炭入り）付き防護マスク、不浸透性手袋、保護眼鏡及び長ズボン・長袖の作業衣を着用し、薬液が皮膚に付着したり、揮散したガスを吸い込んだり、また薬液やガスが眼に入らないよう注意する。
- 作業に際してはガスに暴露しないように風向き等を十分に考慮する。特に住宅付近での使用にあたっては十分注意する。
- 作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
- 本剤が衣服等に付着した場合には直ちに着替え、本剤が付着した衣服等は他のものとは分けて洗濯し、臭気が抜けるまでは身に付けない。
- 作業中及びくん蒸中の圃場へ小児等作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入らないよう十分に注意する。
- 街路、公園等で使用する場合は、作業中及びくん蒸中に小児や作業に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。





治療法…該当なし

魚毒性等…水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用はさける。使用量に合わせて秤量し、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保管…密栓し、火気をさけ、食品と区別して、直射日光が当たらない冷涼・乾燥した所。カギをかける。種子、苗、肥料、他の農薬等と隔離する。

- PRTR法**
- 火災時は適切な保護具を着用し消火剤等で消火に努める。
 - 漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収する。
 - 移送取扱いは、ていねいに行う。
 - 使い終わった缶は、逆さまにして周囲に影響のない圃場に臭いが抜けるまで立てておく。その後、危険のない場所で処理するか、収集場所に出す。
 - 盗難・紛失の際は、警察に届け出る。

